

2018 年度後期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント
—大学院全体—

社会イノベーション研究科長 古川 良治

大学院の授業については、全 12 項目のうち 9 項目において、5 点満点で平均が 4.50 を超えており、概ね良好な評価が得られていた。最も評価が高かったのは「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」(4.87) であり、「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」(4.82)、「教員は教室内が学習にふさわしい状態（私語対応等）に保たれるように心掛けた (4.81)」「この分野への興味・関心が引き起こされた」(4.74) という回答が続いている。

また、「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」と他の項目の相関係数については、「この分野への興味・関心が引き起こされた」(0.76) が最も高く、「授業中、この授業の内容を理解するために努力した（ノートをとる等）」(0.59)、「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」(0.58) が比較的高い値で続いていた。一方、授業で用いられた授業手法としては「課題（レポート等）」(74.7%)、「質疑応答」(65.8%) が高く、授業を通じて身についた資質・能力としては「この分野の知識、学力」(86.1%)、「論理的思考力」(49.4%) が上位に挙げられている。

これらの結果から、大学院における授業では、課題を中心とした学びや質疑応答などに学生が積極的に取り組み、専門分野への興味・関心が喚起され、学生が当該分野の知識、学力を得ているという様子がうかがわれる。今後も、授業の総合的評価に影響を与える諸要因に留意しつつ授業を行うことにより、一層充実した授業を行っていくことが望まれる。

以上